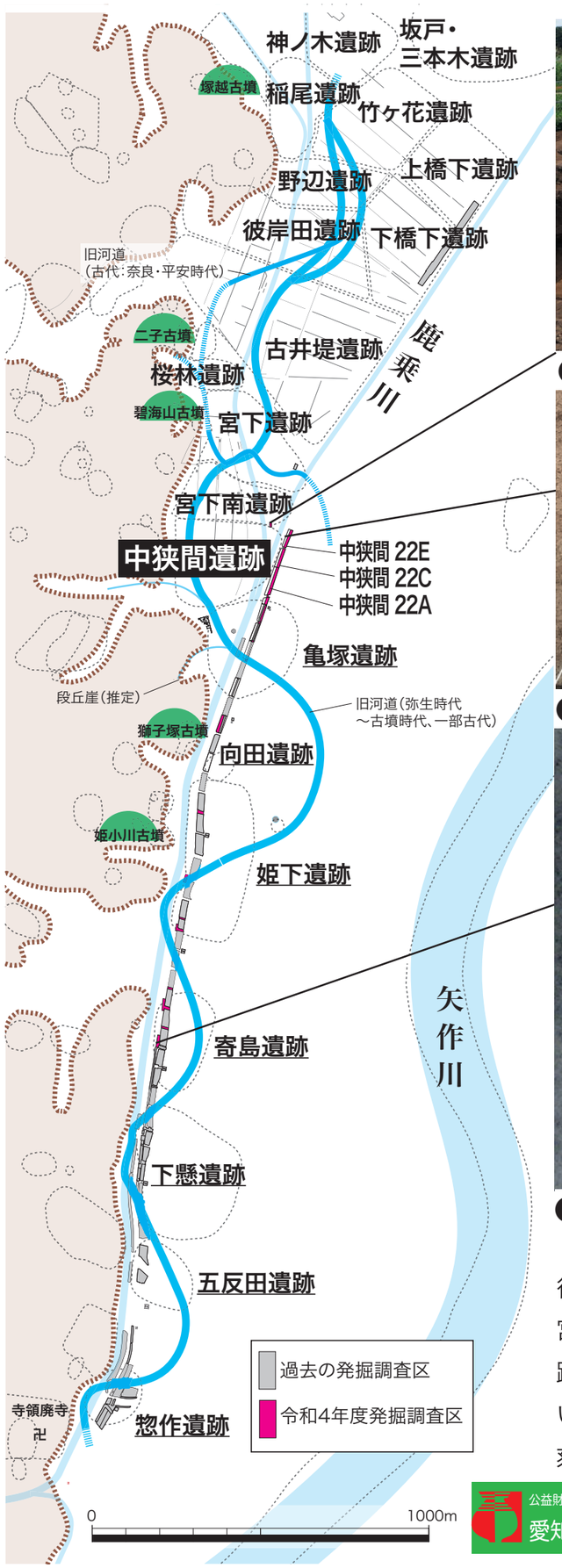

❺宮下南遺跡（古墳時代の溝、南から）

❻中狭間遺跡（古墳時代の竪穴建物跡、22E 区）

❼寄島遺跡（出土した線刻のある壺）

発掘調査は鹿乗川改修工事の事前調査として行っています。令和４年度は中狭間遺跡の他に、宮下南遺跡（❺）・亀塚遺跡・向田遺跡・姫下遺跡・寄島遺跡・下懸遺跡でも発掘調査を行っています。寄島遺跡 22B 区では竪穴建物跡から線刻の施された土器が出土しています（❼）。

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24
Tel. 0567-67-4163　Fax.0567-67-3054
http://www.maibun.com/

愛知県 安城市 鹿乗川流域遺跡群

# 中狭間遺跡

（なかはざまいせき）

地元説明会資料
令和4（2022）年11月3日

調査主体　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
調査支援　安西工業株式会社

❶方形周溝墓（一辺約 7.7m、南東から）

❷ 方形周溝墓（一辺約 7.3m、南東から）

❸ 方形周溝墓（一辺約 9.3m、南東から）

❹ 井戸状遺構（一辺約 3.2m、北東から）

# 中狭間遺跡のプロフィール 2022

**①立地**　中狭間遺跡は、安城市立桜林小学校から現在の鹿乗川にかけて広がる弥生時代～戦国時代の集落遺跡です。安城市東部は、台地（碧海台地）の崖から東方が沖積低地となっており、弥生時代以降の集落遺跡が多数知られています。特に安城町の坂戸・三本木遺跡から東町の亀塚遺跡までは遺跡が密集し、「鹿乗川流域遺跡群」と呼ばれています。中狭間遺跡はその一角にあたります。

**②調査歴**　中狭間遺跡の一帯は、水田の中に島状の畑をつくる「島畑」が多く広がっていました。1946 ～ 1956 年の耕地整理の際に条痕文土器などが出土し、遺跡として認知されるようになりました。その後 1979 年に桜林小学校の敷地内で行われた発掘調査では、南北にのびる幅 10m 以上の大溝が確認されて多量の土器や木製品が出土し、弥生時代～古墳時代の拠点的な集落と考えられています。

**③今回の成果**

（1）中狭間遺跡の範囲が、現在の鹿乗川より東方にも広がっていることがあきらかになりました。

（2）弥生時代後期～終末期の方形周溝墓 3 基が確認されました。❶の周溝からは、赤色顔料の付着した鉢と台石が出土しました。

（3）弥生時代～古墳時代の竪穴建物跡が 15 基以上確認されました。その一部は底面に周溝状の掘方があるタイプです（❻）。

（4）多数ある幅 0.5 ～ 1.0m の溝は、灰釉陶器や一部で山茶碗が出土することから、平安～鎌倉時代に機能していたと思われます。

（5）22A 区の井戸状遺構からは山茶碗とともに土師器の伊勢型鍋が出土しています（❹）。時期は 12 世紀後半と考えられます。